

診療放射線技師

池口雅紹(いけぐち まさあき) 技師

医療の現場で「放射線といえばレントゲン撮影」だったのはもう随分以前のこと、最近ではCTスキャン、マンモグラフィーなど、画像診断や放射線治療を行う分野や場面が増えてきました。また、MRI(核磁気共鳴画像診断装置)をはじめ、超音波検査、眼底撮影など放射線を使わない撮影もあります。

そうした高度化、細分化、専門化する診療放射線、画像診断、画像処理といった医療分野の現場で医師をサポートするのが診療放射線技師です。

「ドクターに言われた通りではなく、時には提案をすることが出来る現場の醍醐味があります」と池口技師。

この分野ではまず検査のために撮影した画像を、医師が問題個所や問題点を見つけやすいように画像処理や解析することが重要なポイントで、専門性、プロの力量が試されます。

徳島大学を経て病院勤務7年、ちょうど現場がわかり、仕事が面白くて仕方がないといった時期で、好奇心いっぱいの目を輝かせる笑顔が個性的で頼もしい、31歳の元気なアニキ的存在です。

もちろん、急ピッチで進む最先端の分野ですから、日々の研鑽も欠かせません。専門誌の論文をチェックし、新しい取り組み、進取の技術についての勉強することも心がけているのだそう。

また、がん患者さんの患部にどれくらいの放射線量を何回、どれだけの期間あてるかといった治療計画を立てるのも専門的な知識を持った診療放射線技師の仕事です。



昨年の東日本大震災、とくに原発事故以降、放射線を心配する傾向が強くなり、そうした社会的な変化や背景への対応にも気を配っています。

池口技師は、「低線量でいかにきれいな画像を撮るかが腕の見せどころ」と、さらに患者さんと直接、接する場面が多いので、わかりやすい説明、親切な応対など接遇にも気を付けているようです。